

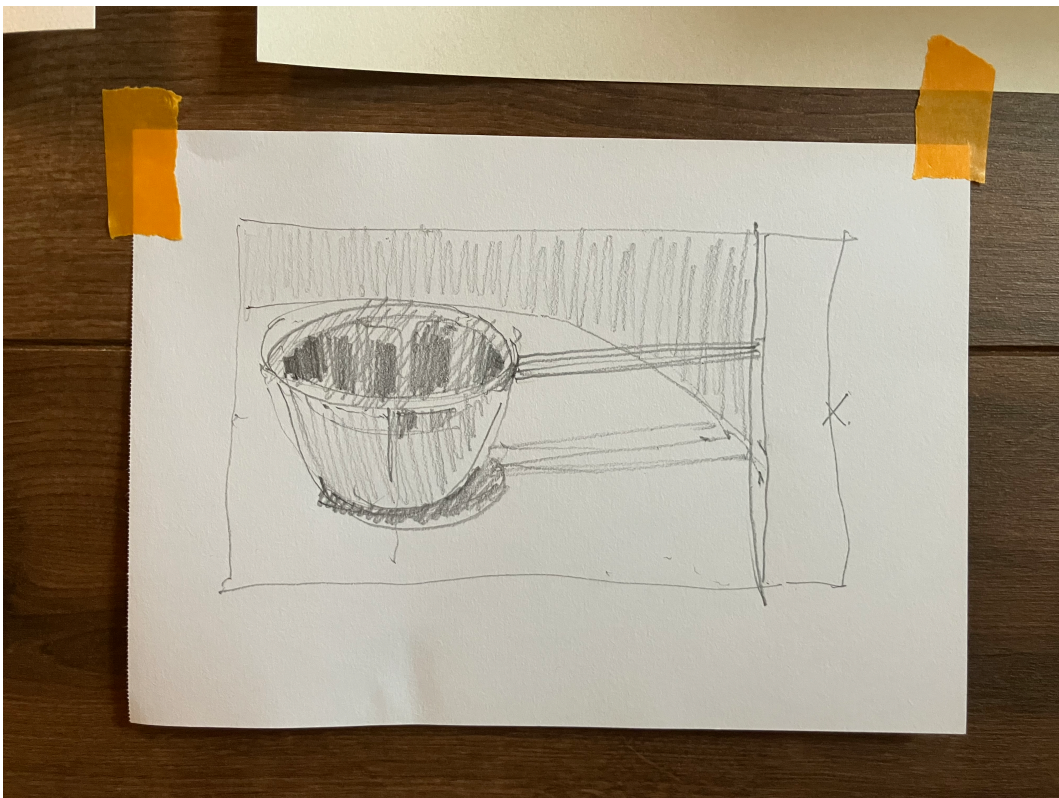
1時間スケッチ練習

<アクリル絵の具>

1. 描きたい題材を選ぶ



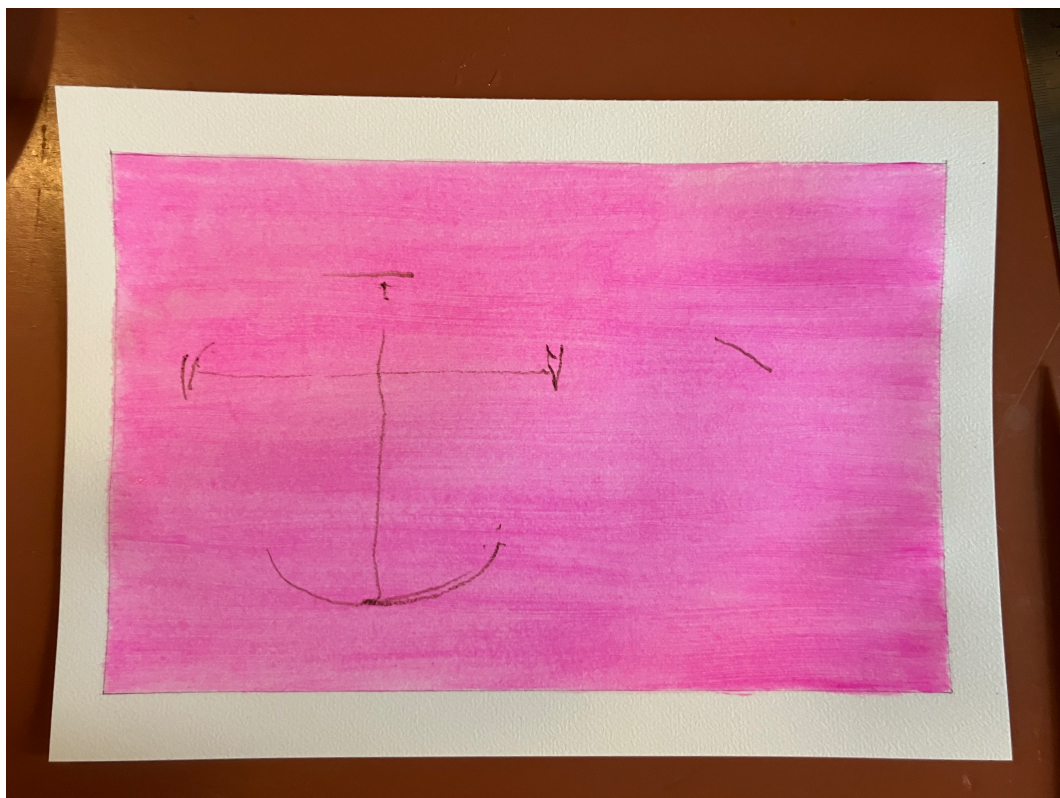
2. 大体の配置を決めたいので、一度スケッチしておく。



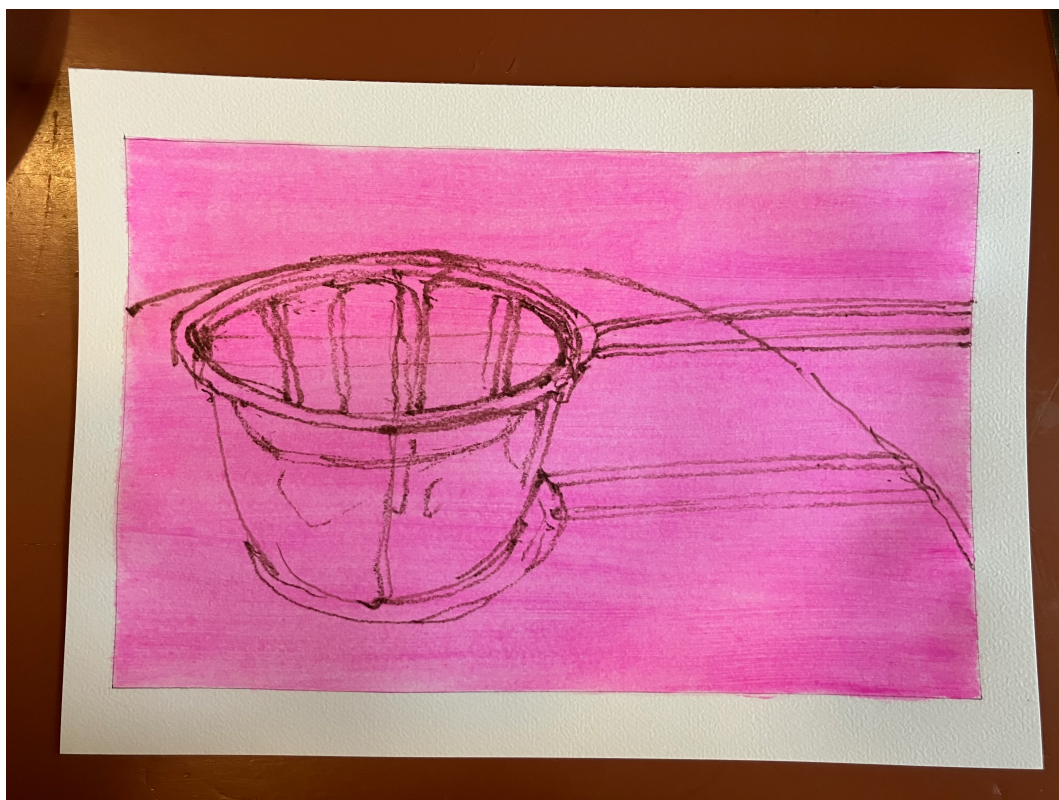
3. 作画の画面を準備する。おすすめは300mgs程の厚い水彩紙など。紙が厚いほど水分によるうねりが抑えられる。紙全体を使ってもいいし、例のように1.5〜2cm程ふちを残しても良い。絵の具をこれから塗っていく部分全体にまず刷毛で水を塗る。水分が紙に馴染んだところで、ベースの色を塗っていく。今回はステンレスの冷たい感じを出すために、寒色系のピンクにしてみた。



4. 写真やモチーフを見ながら、鉛筆か水彩色鉛筆で当たりをつけていく。鉛筆は紙が乾いてから出ないとかけないので、私のようなせっかちには水彩色鉛筆が便利。



5. 下絵の完成



6. 右側が下地塗りに使ったハケ、左側がこれから大きな部分の色を入れていくハケ。



7. 今回はステンレスの寒色系でいきたいので、暗い部分を濃い青色でトーンを落としていく。写真を見ると、一番暗いのはステンレスの内側のふちの部分と鍋が机に接している部分なので、そこを重点的に落としていく。



8. 机と背景もしっかり区別するために、背景の方を縁を中心に暗くしていく。



9. 今度は、白と黄色を使って実際の色に近づけていく。黄色が画面のどこにあるか、目を細めてぼんやりと見てみると浮かび上がってくる。



9. ここからは、より素材らしさを出していくために、より幅の狭い筆に持ち帰る。（右側の筆がこれまで使ってきたもの、左側の筆がこれから持ち替えるもの）



10. 物と物が触れ合っている部分はデッサンにおいて非常に重要である。鍋と机の設置面の影を濃くし、鍋の底の暗い部分も少し丁寧に描く。また、鍋の外側表面に白や黄色を足して、反射の様子に注意を払いながらステンレスの色に近づける。



11. 最後に全体を俯瞰し、鍋の内側の反射をステンレスらしい表面に近づけるために乾いた筆を使って横方向に少し馴染ませる。



12. 1時間でここまでできるととても素晴らしいですが、この後もっと時間を使って細部を描きこむのもとても良いと思います。初めはあまり細部にこだわらず、画面全体の印象を大切に描いていきましょう。